

## 庄内川等水域における水生生物保全環境基準の水域類型の指定に関する調査結果等について

### 1 調査概要

#### (1) 調査期間

平成21年5月から平成22年2月まで

#### (2) 調査機関

民間環境調査会社に委託

#### (3) 調査内容

平成18年6月に環境省が制定した「環境基本法に基づく水質環境基準の類型指定及び水質汚濁防止法に基づく常時監視等の処理基準」に示された「水生生物保全環境基準の水域類型の指定に必要な情報の把握について」に基づき、以下の調査を行った。

#### ア 現地調査

- ・水生生物調査
- ・河川調査
- ・水質調査

#### イ ヒアリング調査

#### ウ 既存資料調査

#### (4) 対象河川及び概要

庄内川等水域の対象河川及びそれらの概要は次表のとおりである。

表 庄内川等水域の対象河川の概要

河川名 (等級)	河川延長 (km)	水域名 (県域内)	BOD等 の類型	漁業権	禁漁区等	保護水面 (注1)	水道 利用
日光川 (二級)	約41	日光川	E	なし	なし	なし	なし
新川 (一級)	約22	新川下流	E	なし	なし	なし	なし
五条川 (一級)	約30	五条川下流	E	なし	なし	なし	なし
庄内川 (一級)	約96 (岐阜県 部分を含 む)	庄内川中流 (1)	B	なし	一部 (注2)	なし	なし
		庄内川中流 (2)	D	なし	一部 (注2)	なし	なし
		庄内川下流					
矢田川 (一級)	約23	矢田川上流	D	なし	なし	なし	なし
		矢田川下流					

注) 1 保護水面とは、水産動物が産卵し、稚魚が成育し、又は水産動植物の種苗が発生するのに適している水面であって、その保護培養のために必要な措置を講ずべき水面として、水産資源保護法(昭和26年法律第313号)に基づき都道府県知事または農林水産大臣が指定する区域。

2 県漁業調整規則による禁止区域が、春日井市玉野町字東谷の玉野堰堤の上下流各100mの区域で期間限定で設定。

## 2 各対象河川ごとの調査結果等

### (1) 日光川

#### ア 調査結果

##### ・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において、生物Bのウナギ、ボラ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

日光川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域<sup>1</sup>の当てはめを必要とする情報はなかった。

1 特別域：水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域。水生生物保全環境基準の類型のうち、河川・湖沼については「生物特A」又は「生物特B」に該当する水域を指す。

##### ・水質等の状況

平均水温<sup>2</sup>は、18～21 程度であり、温水域とされる 15 以上であった。

なお、最高水温<sup>3</sup>は、26～30 程度であった。

全亜鉛濃度<sup>4</sup>は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L 以下）を日光大橋では下回っていたが、北今橋では上回っていた。

2 平均水温：平成 16～20 年度の年平均値の 5 年平均値である。

3 最高水温：平成 16～20 年度の年最高値の 5 年平均値である。

4 全亜鉛濃度：平成 16～20 年度の年平均値の 5 年平均値である。

#### イ 相当すると考えられる水域類型（素案）

上記アの調査結果から、水域類型は、日光川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「5年以内で可及的すみやかに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
日光川（全域）	生物B	5年以内で可及的すみやかに達成

## (2) 新川

### ア 調査結果

#### ・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのウナギ、ボラ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

新川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

#### ・水質等の状況

平均水温は、18～19 程度であり、温水域とされる15 以上であった。

なお、最高水温は、27～29 程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L 以下）を下回っていた。

### イ 相当すると考えられる水域類型（素案）

上記アの調査結果から、水域類型は、新川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
新川（全域）	生物B	直ちに達成

### (3) 五条川

#### ア 調査結果

##### ・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのウナギ、ボラ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

五条川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

##### ・水質等の状況

平均水温は、19 程度であり、温水域とされる 15 以上であった。

なお、最高水温は、27 程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L 以下）を上回っていた。

#### イ 相当すると考えられる水域類型（素案）

上記アの調査結果から、水域類型は、五条川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「5年以内で可及的すみやかに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
五条川（全域）	生物B	5年以内で可及的すみやかに達成

#### (4) 庄内川

##### ア 調査結果

###### ・魚介類の生息状況

漁業協同組合や専門家に対するヒアリングにおいて、生物Aのアマゴの生息情報はなかった。

既存調査においては、庄内川中流(2)のみで生物Aのサツキマスが確認されたが、現地調査では生物Aの魚介類は確認されなかった。

現地調査において生物Bのコイ、オイカワ、スジエビ等の魚介類が確認された。

庄内川において、水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、魚介類の産卵場としては、既存調査において、岐阜県境より下流全域でコイ及びフナ、アユの産卵場、枇杷島床止から小田井床止周辺及び志段味橋上流付近でアユの産卵場、八ヶ村用水堰下流及び神明上条用水堰下流、玉野町地先周辺でオイカワの産卵場の情報があるものの、保護水面の設定はないことから、水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

###### ・水質等の状況

平均水温は、16～20 程度であり、温水域とされる15 以上であった。

なお、最高水温は、28～31 程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L 以下）を上回っていた。

##### イ 相当すると考えられる水域類型（素案）

上記アの調査結果から、水域類型は、庄内川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は「5年以内で可及的すみやかに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
庄内川（全域）	生物B	5年以内で可及的すみやかに達成

( 5 ) 矢田川

ア 調査結果

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物 B のコイ、オイカワ等の魚介類が確認されたが、生物 A の魚介類は確認されなかった。

矢田川において、水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、19～21 程度であり、温水域とされる 15 以上であった。

なお、最高水温は、28～31 程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物 A 」、「生物 B 」の環境基準値（0.03mg/L 以下）を下回っていた。

イ 相当すると考えられる水域類型（素案）

上記アのに示す調査結果から、水域類型は、矢田川全域が生物 B に相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
矢田川（全域）	生物 B	直ちに達成

### 3 調査結果等取りまとめ

調査結果及び類型指定案については、次表のとおりである。また、各対象河川毎の調査結果については、次ページ以降に示す。

調査結果等総括表

河川名	水域名	BOD等 類型	区域・ 地点等	現地調査結果						公共用水域調査結果		類型素案	
				水生生物生息状況		魚類放流		保護 水面 3	平均水温 ( ) 4	全亜鉛濃度平均値の 環境基準値との比較 (環境基準値0.03mg/l) 5	類型	達成期間	
				生物調査		ヒアリング 1	生物A 該当種						生物B 該当種
				生物A該当種 の確認の有無	生物B該当種 の確認の有無								
日光川	日光川	E	全域	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	超 過	生物B	5年以内で可及的 すみやかに達成
新川	新川下流	E	全域	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	以 下	生物B	直ちに達成
五条川	五条川下流	E	全域	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	超 過	生物B	5年以内で可及的 すみやかに達成
庄内川	庄内川中流 (1)	B	全域	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	以 下	生物B	5年以内で可及的 すみやかに達成
	庄内川中流 (2)	D	上流側	無	有								
			吉根橋	有(既存資料)	有								
			下流側	無	有								
庄内川下流		全域	無	有									
矢田川	矢田川上流	D	全域	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	以 下	生物B	直ちに達成
	矢田川下流		全域	無	有								

- 注) 1 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲  
 2 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲  
 3 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など  
 4 [平均水温] 平成16～20年度の年平均値の5年平均値を、温水域と冷水域を区分する目安とされる平均水温15 と比較  
 5 [全亜鉛濃度平均値と環境基準値との比較] 平成16～20年度の年平均値の5年平均値を、水生生物の環境基準値(0.03mg/l)と比較

(1) 日光川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			類型素案			
				水生生物生息状況 1		魚類放流 3		保護水面 4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 ( ) 5		全亜鉛濃度 (環境基準値 0.03mg/l)	類型	達成期間	
				生物A 該当種	生物B 該当種	ヒアリング 2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温				最高水温
				確認の有無	確認の有無		確認の有無	確認の有無									
日光川	E	県道182号交差		無	有	生物A該当種確認なし	無	無	無	泥砂	無	無	17.5	25.9	0.05	生物B	す5年以内に達成
		田待橋		無	有					砂	落差工						
		日光川橋															
		花福橋		無	有												
		板倉橋	補助点														
		北今橋	基準点														
		天王橋		無	有												
		西光橋		無	有												
		日光橋	補助点														
		御贄橋		無	有												
		日光大橋	基準点														
日光川水閘門						水閘門											

- 注) 1 調査で確認された魚類 生物B該当種：トウヨシノボリ、フナ属、ドジョウ など  
 2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲  
 3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲  
 4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など  
 5 [水温] 平均水温：平成16～20年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成16～20年度の年最高値の5年平均値  
 6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成16～20年度の年平均値の5年平均値



(2) 新川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			類型素案				
				水生生物生息状況 1		魚類放流 3		保護水面 4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 ( ) 5		全亜鉛濃度 (環境基準値 0.03mg/l)	類型	達成期間		
				生物A 該当種	生物B 該当種	ヒアリング 2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温				最高水温	平均値 6
				確認の有無	確認の有無													
新川下流	E	比良新橋	補助点	無	有	種生 確物 認A なし 当	無	無	無	砂礫	無	無	17.9	27.3	生物B	直ちに達成		
		丸中橋		無	有													
		新川橋	補助点															
		萱津橋	基準点	無	有													0.03
		日の出橋	補助点	無	有													18.6

- 注) 1 調査で確認された魚類 生物B 該当種：オイカワ、ウグイ、ウナギ など  
 2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲  
 3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲  
 4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など  
 5 [水温] 平均水温：平成 16～20 年度の年平均値の 5 年平均値、 最高水温：平成 16～20 年度の年最高値の 5 年平均値  
 6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成 16～20 年度の年平均値の 5 年平均値

(3) 五条川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			類型素案					
				水生生物生息状況 1		魚類放流 3		保護水面 4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 ( ) 5		全亜鉛濃度 (環境基準値 0.03mg/l)	類型	達成期間			
				生物調査		ヒアリング 2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温				最高水温	平均値 6	
				生物A 該当種	生物B 該当種			確認の有無	確認の有無										
五条川 下流	E	朝日橋		無	有	生物A 該当種 確認なし	無	無	無	礫石	堰	無			生物B	す5年 みやか かにで 達成 的			
		新富士見橋		無	有														
		木津用水横断		無	有														
		待合橋	基準点	無	有												19.5	27.4	0.06
		稻春橋	補助点														19.3	27.6	
		下之郷堰		無	有														
		法界門橋		無	有														

- 注) 1 調査で確認された魚類 生物B該当種：オイカワ、フナ属、ドジョウ など  
 2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲  
 3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲  
 4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など  
 5 [水温] 平均水温：平成16～20年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成16～20年度の年最高値の5年平均値  
 6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成16～20年度の年平均値の5年平均値

(4) 庄内川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			類型素案							
				水生生物生息状況 1		魚類放流 3			保護水面 4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 ( ) 5		全亜鉛濃度 (環境基準値 0.03mg/l)	類型	達成期間				
				生物調査		ヒアリング 2	生物A 該当種	生物B 該当種					平均水温	最高水温				平均値 6			
				生物A 該当種	生物B 該当種										確認の有無	確認の有無					
庄内川 中流 (1)	B	蛇ヶ洞川合流		無	有	生物A 該当種 確認なし	無	無	無	岩盤石				生物B	5 年以内で可及的 すみやかに達成						
		城嶺橋	基準点								堰	有	16.2			28.0	0.01				
		春日井市玉野台付近		無	有																
庄内川 中流 (2)	D	東谷橋		無	有					無	無	無	石礫						0.01		
		大留橋	基準点													堰	有	17.0		28.6	
		吉根橋		有(既存資料)	有											堰	有				
		春日井市下津町付近														堰	有				
		JR中央本線橋梁														床止					
		水分橋	基準点	無	有											頭首工	有	19.5		30.6	0.08
庄内川 下流	D	新川中橋								無	無	無	砂礫						0.05		
		矢田川合流		無	有											堰	有				
		JR東海道本線橋梁														床止	有				
		枇杷島橋	基準点													床止		19.1		30.9	
		横井大橋		無	有																
明德橋		無	有																		
庄内新川橋	補助点								泥砂			19.0	29.3								

- 注) 1 調査で確認された魚類 生物A 該当種: (庄内川中流(2)) サツキマス  
 生物B 該当種: (庄内川中流(1)) オイカワ、ドジョウ、スジエビ など、  
 (庄内川中流(2)) オイカワ、フナ属、ウナギ など、  
 (庄内川下流) ボラ、ウナギ、ウグイ など
- 2 ヒアリング: 漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
- 3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
- 4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など
- 5 [水温] 平均水温: 平成 16~20 年度の年平均値の 5 年平均値、 最高水温: 平成 16~20 年度の年最高値の 5 年平均値
- 6 [全亜鉛濃度] 平均値: 平成 16~20 年度の年平均値の 5 年平均値

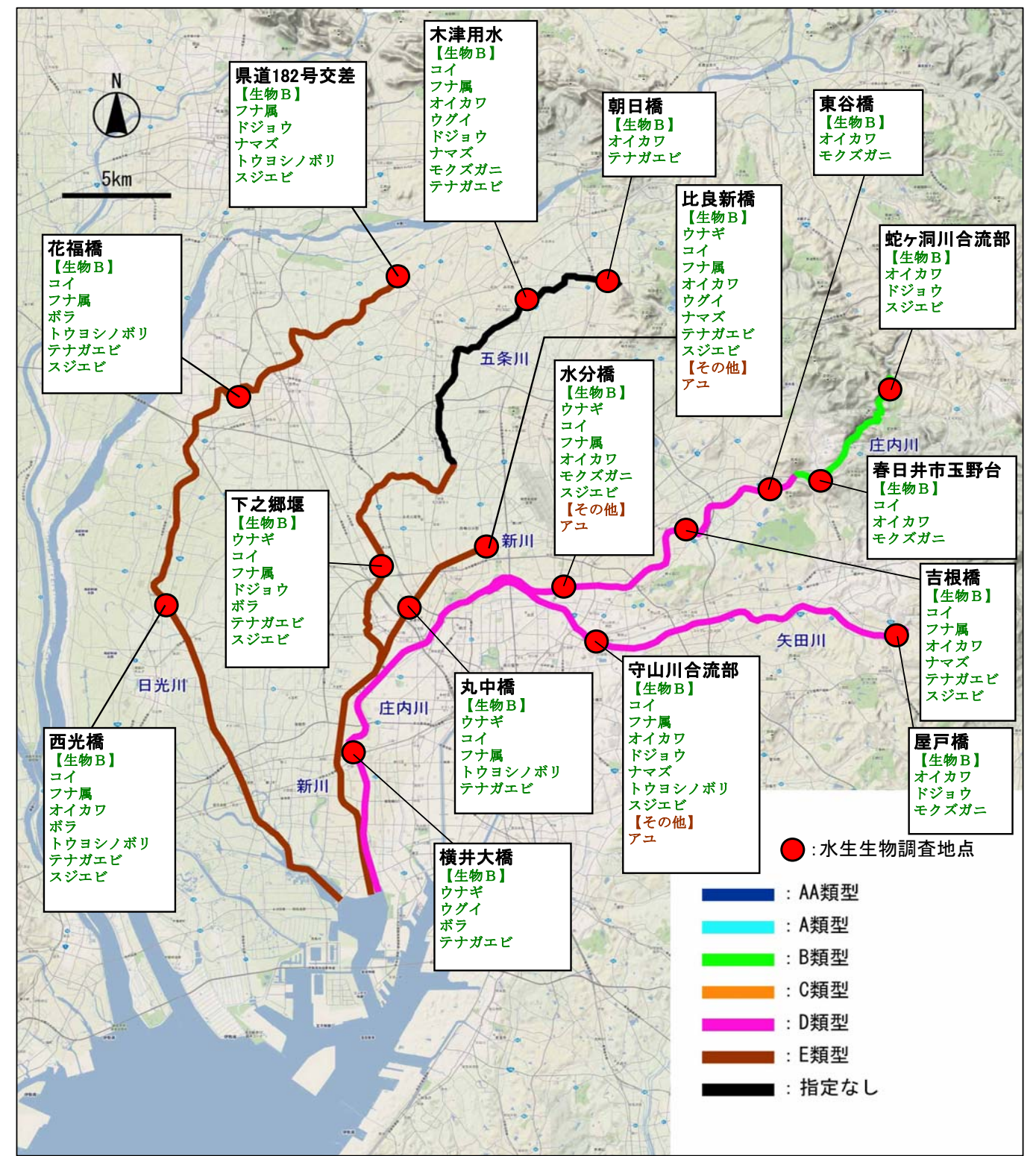
(5) 矢田川

水 域 名	B O D 等 類 型	地 点 名	環 境 基 準 点 等	現地調査結果						公共用水域調査結果			類型素案													
				水生生物生息状況 1		魚類放流 3		保護 水面 4	河床 状況	主な 横断 構造物	魚 道	水温 ( ) 5		全亜鉛濃度 (環境基準値 0.03mg/l)	類 型	達 成 期 間										
				生物調査		ヒアリング 2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温				最高水温	平均値 6								
				生物A 該当種	生物B 該当種			確認の有無	確認の有無																	
矢田川 上流	D	屋戸橋		無	有	生物 A 該 当 種 確 認 な し	無	無	無	礫砂	落差工・堰	無			生物 B	直 ち に 達 成										
		幡山橋									落差工・堰															
		高座橋		無	有						落差工															
		本地大橋									落差工															
		宮下橋	補助点								落差工		21.2	31.0												
		印場橋		無	有						落差工															
大森橋		基準点			落差工						18.6		27.9	0.01												
矢田川 下流		千代田橋		無	有														落差工							
		守山川合流		無	有																					
		天神橋	基準点																床止						18.5	31.4
	三階橋		無	有	床止																					
	庄内川合流部																									

- 注) 1 調査で確認された魚類 生物 B 該当種：(矢田川上流) オイカワ、ドジョウ、モクズガニ、  
(矢田川下流) オイカワ、トウヨシノボリ、フナ属 など
- 2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
- 3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
- 4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など
- 5 [水温] 平均水温：平成 16～20 年度の年平均値の 5 年平均値、最高水温：平成 16～20 年度の年最高値の 5 年平均値
- 6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成 16～20 年度の年平均値の 5 年平均値



庄内川等水域における対象河川の状況



水生生物調査結果